

## [029] ICER Newsletter

<https://hdl.handle.net/2324/1833715>

---

出版情報 : ICER Newsletter. 29, pp.1-, 2017-10. 九州大学附属図書館付設教材開発センター  
バージョン :  
権利関係 :

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

# ICER Newsletter

## 福岡市博物館展示報告

### 鴻臚館のWeb教材/VR教材

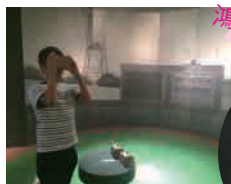
9月7日(木)～10月22日(日)の期間に、福岡市博物館にて「発見 100年記念特別展 よみがえれ! 鴻臚館—行き交う人々と唐物—」が開催されています。この展示の中で、教材開発センターで開発された2つの教材が展示されています。1つ目は、室川康男氏の描いた動くイラストを見ながら鴻臚館での生活の様子を学習できる教材です。こちらの教材は、博物館の展示室内でパソコンを操作しながら、大型のスクリーンで映像を見ることができます。



▲ 展示会場入り口

2つ目は、バーチャルリアリティ(VR)の技術を活用して、鴻臚館の再現CGの中を歩き回りながら、かつての鴻臚館の様子を体験できる教材です。こちらの教材は、専用のゴーグルを覗きながら映像を楽しむことができます。

鴻臚館は、今から1000年以上前に、現在の福岡市内に存在した迎賓館です。鴻臚館跡地から出土された様々な文化財を見ると、かつてから日本・中国・韓国との交流は非常に盛んだったことがわかります。鴻臚館のことをよく知らないという方も、よく知っているという方も、鴻臚館跡発見100年記念に是非福岡市博物館を訪れてみてはいかがでしょうか?



▲ VR教材

ゴーグルをつけて  
鴻臚館の中を探索!



▼ Web教材



展示に関する詳細は、福岡市博物館ウェブサイトをご覧ください。

▶ <http://museum.city.fukuoka.jp/exhibition/tokubetsu2.html>

【金子 晃介 准教授(協力教員)】

## 電子教材著作権講習会のご案内

伊都	12月25日(月) 10:30～12:00	センター3号館1階 3105 セミナー室
箱崎	12月25日(月) 15:00～16:30	理系地区21世紀交流プラザII 講義室1(中央図書館横)
馬出	12月25日(月) 17:30～19:00	総合研究棟1階104 セミナー室

※ 対象は本学に在籍する全教職員、大学院生および学部学生

お申し込み・詳細はこちら

▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics\\_20170925](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20170925)

【河野 由起子(テクニカルスタッフ)】

12月25日(月)に電子教材著作権講習会を3キャンパスにて開催します。電子教材に含まれる他人の著作物の使用許諾や著作権者のガイドラインに基づく点検、教材作成者側のガイドライン提案など有用な内容です。この機会にぜひご参加ください。

## 「先生の森 動画版」撮影秘話 ～病院撮影編～

### ▼ 診察室での撮影風景



### ▼ 手術室の様子



教材開発センターでは、本学の代表的な先生方の研究紹介ビデオ「先生の森 動画版」を制作・配信しています。様々な分野の先生に取材をさせていただく過程で、普段はなかなか入れない場所にお邪魔させていただくこともあります。

先日は、吉田茂生先生(医学研究院 眼科学)のビデオ制作にあたり、九大病院で撮影を行いました。ビデオのベースとなる先生のインタビュー映像を診察室で行ったほか、診療の様子や手術の様子など、貴重な場面の取材もさせていただきました。手術室に入らせていただいた際には、撮影班一同、大変緊張しましたが、同時に、近年の医療技術の発展に驚きました。

完成したビデオは、「先生の森 森の映画館」にて公開予定ですので、どうぞご期待下さい!



「先生の森 森の映画館」はこちら

▶ <http://rpv.icer.kyushu-u.ac.jp/>

【谷澤 亜里 助教】

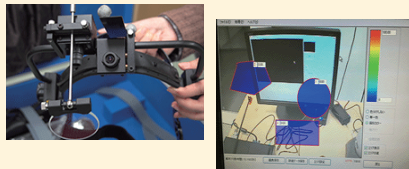
## 2D/3D 教材開発システムの紹介 ～ vol.6～

### 視線追尾装置

「視線追尾装置」は、被験者が今どこを見ているのかを計測する装置です。被験者の瞳を小型カメラで撮影し、瞳の動きを追跡することで、被験者の視線を追跡することができます。教材開発センターの視線追尾装置は、頭に装着するタイプで頭の動きの影響を受け難く、LED ライトを瞳に当てその輝点の動きを追跡することにより、精度よく視線追尾が行えます。

視線追尾装置は、様々な活動場面において、人がどのように対象物を捉えているのかを調査するのに向いています。例えば、大学の講義や実習・実験において、学生がどのような視線の動きをしているのかを解析することで、興味はどこにあるのか、講義に集中しているのか等を把握するのに役立ちます。視線の動きに基づくユーザインタフェースの研究開発も行われています。

電子教材開発に限らず研究目的のご利用も可能ですので、是非ご活用下さい。

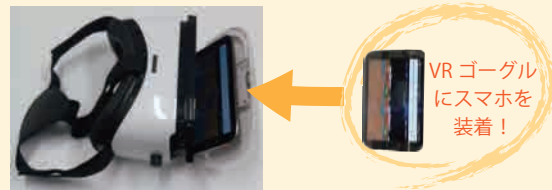


【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

## 3次元CGやVR/ARを活用した Web教材の開発に挑戦してみませんか?

最近のWeb技術の進展は目覚ましいものがあります。WebGLと呼ばれる3次元CGモデルを描画する機能、スマートフォン本体の姿勢情報やGPS情報を取得する機能やカメラ画像を取得する機能がWebブラウザに装備されています。動的なWebコンテンツの開発は、JavaScriptと呼ばれるスクリプト言語のプログラムによって可能です。JavaScriptのプログラムにより、3次元CGモデルを描画したり、GPS情報を取得したり、カメラ画像を取得したりできますので、VR(Virtual Reality)/AR(Augmented Reality)アプリケーションを動的なWebコンテンツとして開発できます。

教材開発センターでは、このような最新ICTを活用した教材開発の支援も行っておりますので、ご相談下さい。



【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

### ～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast\\_use\\_apply](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply)

- ① デジタル顕微鏡
- ② 光学式モーションキャプチャー装置
- ③ 3D スキャナー
- ④ 3D プリンター
- ⑤ ハイスピードカメラ
- ⑥ 視線追尾装置
- ⑦ 講義収録配信システム